

新聞発表資料

下宅部遺跡出土の木の葉で蓋をした漆液容器

縄文時代の漆工関連出土品が東京都の指定文化財になっている、東京都東村山市の下宅部遺跡（しもやけべいせき）出土の土器の中から、使用途中の漆が乾いて固まらないように、木の葉（広葉樹）で蓋をした容器が見つかった。縄文時代後期（約3,200年前）の土器で、大きさは直径約10cm、高さ約3cmの小鉢のような形をしており、塗布用のパレットとして使われていた。

奈良時代以降では不要となった暦などの和紙を漆の蓋に使用しており、漆紙文書として遺跡から出土することがある。それ以前の漆の蓋についてはほとんど出土例がなく、唯一縄文時代晩期の新潟県野地遺跡（やちいせき）で漆液容器の外側に葉の断片が付着している土器があり、蓋の可能性が指摘されていた。今回の下宅部遺跡の資料は野地遺跡よりもさらに古く、土器の内側に残った漆の表面の広い範囲に貼りつくように木の葉が残っており、蓋であることはほぼ間違いのないことから、縄文時代の漆工技術を知る上で極めて重要な資料となった。

下宅部遺跡は全国で唯一「縄文時代の漆掻き傷」が発見されていることでも知られており、漆を調整加工した容器や塗布用のパレット、漆塗りの土器や弓などの木製品、さらには割れた土器を漆で接着して補修している資料など、縄文時代の漆工技術の高さを知ることのできる資料がまとまって出土している。

東村山市では市制施行50周年に向け、市の重要な文化財である下宅部遺跡の漆工関連資料を内外に広く知ってもらうため、『下宅部遺跡Ⅳ 漆工関連資料調査報告書』を刊行したが、今回の新資料はそのための整理調査を行っている中で発見された。報告書は東村山ふるさと歴史館で1,000円で頒布している。

なお、この新発見資料は、現在「東村山市八国山たいけんの里」で他の下宅部遺跡出土品とともに展示されている。通常は月・火曜休館だが、6月8日（土）～23日（日）までは近くの北山公園で「東村山菖蒲まつり」が開催されるため全日程開館しており、土・日曜はガイド・ボランティアによる展示説明を行う。

東村山市八国山たいけんの里

住 所 東村山市野口町3-48-1

電 話 042-390-2161

開館時間 9:30～17:00

アクセス 西武鉄道西武園駅下車 徒歩10分

駐車場はありません